

美術科学習指導案

指導者 廿日市市立阿品台中学校
教諭 生田 泰文

- 1 日時 平成19年 9月〇日(〇)～9月〇日(〇)
- 2 学年・学級 第1学年〇組(〇名)
- 3 場所 第1美術室
- 4 題材名 発見!生活の中の美のツボ
- 5 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領美術第1学年B鑑賞Iを受けて設定したものである。本題材では、生徒が普段の生活の中で何気なく見たり、接したりしている様々なデザインの役割や効果に気付かせ、生活におけるデザインの働きについて理解させることをねらいとしている。

私たちは、日常生活の中で、多くのデザインに囲まれて生活しているが、その価値や働きを実感として受け止めているとはいえない実態がある。日常生活におけるデザインの働きについて考えさせることは、生活と美術とのかかわりや、ものづくりの価値に気付かせることにつながり、生徒が自分の生活をより美しく心豊かにしようとする思考力や態度を育てることにつながっていく。美術で学習したことが、身の回りの様々な場面で生かされていることを知ることは、学習意欲の向上や、実感をもって知識や技能を習得できるといった点で、今後の学習に有効である。本題材は、デザインの能力を高めるだけでなく、生涯にわたって自分の生活をより美しく心豊かなものにし、美術を愛好していこうとする心情を育てることができる題材である。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、デザイン分野の「色彩の性質や感情」を学習し、色彩の感情や三属性、組み合わせによる効果についての基礎的な知識はある。しかし、それらが自分たちの日常生活でどのように活用されているか考えることはあまりないという実態がある。

1学期に実施した鑑賞の学習では、生徒は表現活動と同様におおむね意欲的に活動することができた。例えば、素描の学習においては、参考作品を鑑賞したり、生徒同士の作品の相互鑑賞を行ったりした際に、作品に対するそれぞれの思いをもつことができた。

(3) 指導観

指導にあたっては、生徒の生活とのかかわりを大切に、日常生活の中にある様々なデザインを鑑賞させることによって、それらのよさや工夫点などに気付かせ、デザインが日常生活でどのように活用されているか考えさせていく。

鑑賞において、生徒はおおむね意欲的であり、実感をもってよさを納得させ、生活におけるデザインの働きをより深く理解させることができるよう工夫したい。

具体的には、実物に触れたり実物を使用したり、ビデオなどを効果的に視聴したりするなどの体験活動を行い、その後、生徒自らが生活の中のデザインを見つめ直したり、商品をデザインしてみたりするなどの実生活につなげた活動を取り入れる。これらのことから、授業での学習が、生徒の生活体験と結び付き、生徒が自分の問題として考えることができるようにしていきたい。

6 題材目標

- ・ 日常生活の中にあふれている身の回りのデザインの工夫について、関心をもって見たり、自分の生活の中から見付けたりすることができる。（美術への関心・意欲・態度）
- ・ よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えたデザインを発想することができる。（発想や構想の能力）
- ・ 様々な用いられている生活の中のデザインから、自分の見方・感じ方でよさや美しさを感じ取り、デザインが生活に役立っていることに気付くことができる。（鑑賞の能力）

7 評価規準

〈ア 美術への関心・意欲・態度〉

- 1 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。
- 2 工夫されたデザインを、自分の生活から見付けようとしている。

〈イ 発想や構想の能力〉

- 1 よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。

〈ウ 鑑賞の能力〉

- 1 自分の見方・感じ方で、よさや美しさを感じ取っている。
- 2 生活の中のデザインが様々な用いられて、生活に役立っていることに気付いている。

8 題材の指導計画（全4時間）

時	学 習 内 容	評 価			
		関	発	鑑	
1	○ デザインのグループ鑑賞をする。 ○ ビデオ視聴や日用品の実物に触れ、生活の中のデザインに気付く。 ○ 様々なデザイン商品を使ってみる。	○			【関】 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。 (ワークシート, 行動観察)
2	○ マイグッドデザインを紹介し合う。	○		◎	【関】 工夫されたデザインを、自分の生活から見付けようとしている。 (ワークシート) 【鑑】 自分の見方・感じ方で、よさや美しさを感じ取っている。(行動観察)
3	○ 商品開発にチャレンジする。		○		【発】 よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。 (開発構想図)
4	○ グッドデザインアワードをする。 ○ デザインに再挑戦する。 ○ 学習のまとめをする。		○	◎	【発】 よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。 (ワークシート) 【鑑】 生活の中のデザインが様々な用いられて、生活に役立っていることに気付いている。 (ワークシート, アンケート)

9 本時の展開（1 / 4 時間目）

(1) 本時の目標

- 日常生活の中にあふれている身の回りのデザインの工夫について、関心をもって見ることができ

(2) 本時の評価規準

- 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。（美術への関心・意欲・態度）

(3) 準備物

- ・生活の中のデザインを収録したビデオ
- ・デザインの効果を活かした日用品等
- ・ワークシート

(4) 学習の展開

	学 習 活 動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準（評価方法） （● 十分満足できる状況の例）
導 入	1 デザインのグループ鑑賞をする。 2 本時の学習目標を知る。	◇ 生徒が主題に対する課題意識をもつよう、一般的なデザインと比較させるなど、提示方法を工夫する。 ◆ 机間指導を行い、円滑な話し合いを支援する。	
展 開	3 実物を鑑賞したり、ビデオを視聴したりして、生活の中にデザインがあふれていることに気付く。 4 デザイン商品の実物を使用してみる。 5 鑑賞したり、使用したりしたモノから、デザインが生活にどのような影響を与えているか考える。	◇ 生徒が日常生活を振り返りやすいよう、身近な生活で接しているものを鑑賞の対象として用意する。 ◆ 説明の前に予想をさせたり生活を振り返らせたりすることができるようにする。 ◇ ワークシートを使用することによって話し合う視点を明確にする。 ◆ 考え方のポイントを助言する。	【関】 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。 (ワークシート, 行動観察) ● 使用することをイメージするなど、生活とデザインを結び付けている。 ● 意識して見つめ直している。
終 末	6 本時の学習について振り返る。 7 次時の学習内容を知る。	◇ 分かったことや、疑問点などを記入させる。 ◇ 次時の活動への意欲をもたせる。	

10 本時の展開（2／4時間目）

(1) 本時の目標

- 自分の生活の中から工夫されたデザインを見付けたり、自分の見方・感じ方でデザインのよさや美しさを感じ取ったりすることができる。

(2) 本時の評価規準

- 工夫されたデザインを、自分の生活から見付けようとしている。（美術への関心・意欲・態度）
- 自分の見方・感じ方で、よさや美しさを感じ取っている。（鑑賞の能力）

(3) 準備物

- ・マイグッドデザイン
- ・ワークシート
- ・参考資料及び写真

(4) 学習の展開

	学 習 活 動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準（評価方法） （● 十分満足できる状況の例）
導 入	1 本時の学習目標を知る。 2 マイグッドデザインの紹介方法を知る。	◇ 教師が、自分のマイグッドデザインを紹介し、例を示す。 ◆ 提出日を前日までに設定し、全員が準備できるようにする。	
展 開	3 マイグッドデザインをグループ内で交流する。 4 他の班のマイグッドデザインを順に見て、感じ取ったよさや美しさをワークシートに記入する。	◇ お互いの見方や感じ方を尊重するよう指導する。 ◆ 机間指導を行い、円滑な話し合いを支援する。 ◇ 触ってもよいモノには印をつけさせる。 ◇ すべてのデザインを見ることができるよう、時間を設定する。 ◆ 色や形など、いくつかの視点を助言する。	【関】 工夫されたデザインを、自分の生活から見付けようとしている。（ワークシート） ● 根拠をもとに、見付けてくることができている。 【鑑】 自分の見方・感じ方で、よさや美しさを感じ取っている。（ワークシート・行動観察） ● 友達のマイグッドデザインから、よさや美しさを感じ取り、自分の言葉で三つ以上ワークシートに記入できる。
終 末	5 本時の学習について振り返る。 6 次時の学習内容を知り、開発商品について話し合う。	◇ 見付け出したよさや美しさを発表させる。 ◇ 自分たちが、日頃よく見たり使ったりするモノの中から選ぶようにさせる。	

1 1 本時の展開（3 / 4 時間目）

(1) 本時の目標

- よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えたデザインを、仲間と協力し、発想することができる。

(2) 本時の評価規準

- よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。（発想や構想の能力）

(3) 準備物

- ・ 参考資料・写真 ・ ワークシート ・ 色鉛筆

(4) 学習の展開

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 (評価方法) (● 十分満足できる状況の例)
導 入	1 本時の学習目標を知る。 2 商品開発のポイントについて考える。	◇ 予想を立てさせてから、具体的に説明をする。	
展 開	3 グループごとに商品開発を行う。	◇ 次時に、グッドデザインアワードを行うことを説明する。 ◇ 全員が役割をもつように、班内で分担を決めさせる。 ◇ 途中段階の図案も残させて、自分たちの工夫の跡を振り返ることができるようにする。 ◇ マーケティングとして、他の班の生徒に、意見を聞きに行ってもよいこととする。 ◆ 机間指導を行い、円滑な話し合いを支援する。 ◆ 各商品ごとに、参考となる資料を用意しておく。	【発】 よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。 (ワークシート, 行動観察) ● 商品の対象となる人の生活をイメージし、役立ちそうなデザインを、仲間と協力し考え出すことができる。
終 末	4 本時の学習について振り返る。 5 次時の学習内容を知る。	◇ 今日の活動を振り返り、自分たちの商品と開発までの流れをまとめ、次時の発表原稿とする。	

1 2 本時の展開（4 / 4 時間目）

(1) 本時の目標

- 生活で使用することをイメージし、役立つデザインを、発想することができる。
- 生活の中のデザインが様々に用いられて、生活に役立っていることに気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

- よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。（発想や構想の能力）
- 生活の中のデザインが様々に用いられて、生活に役立っていることに気付いている。（鑑賞の能力）

(3) 準備物

- ・参考資料・写真
- ・ワークシート
- ・色鉛筆
- ・事前に行った時計のデザインプリント

(4) 学習の展開

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 (評価方法) (● 十分満足できる状況の例)
導 入	1 本時の学習目標を知る。 2 グッドデザインアワードについて説明を聞く。	◇ お互いの見方や感じ方を尊重するよう指導する。	
展 開	3 班ごとに、自分たちがデザインした開発商品を発表する。 4 事前に、一人一人がデザインした時計を、デザインし直す。	◇ よさや美しさや使用者への心遣いについて、各自の見方・感じ方で判断させる。 ◇ 事前にデザインしたプリントを配付し、班で取り組んだ商品開発の経験をいかして、もう一度デザインさせる。 ◆ 前時に学習した、商品開発のポイントを確認させる。 ◆ ポイントを絞って考えさせる。	【発】 よさや美しさ、用途や機能、使用する人のことを考えて発想している。 (ワークシート) ● 自分の生活の中で、時計を使用することをイメージし、役立つように工夫している。
終 末	5 学習内容を振り返る。 6 次時の学習内容を知る。	◇ これまでの学習で、気付いたことや分かったことを記入させる。 ◆ 生活者側または、開発する側から生活とデザインを考えさせる。	【鑑】 生活の中のデザインが様々に用いられて、生活に役立っていることに気付いている。 (ワークシート、アンケート) ● 実際の生活の中で、自分の問題として、具体例を挙げてワークシートに記入している。